教育情報
STEP
研修講座号

2024.9.2
発行：嶺南教育事務所
TEL：0770-56-1309（代表）
FAX：0770-56-1391
MAIL: reo-k@chive.ocn.ne.jp

8／20 小学校国語科研修講座の概要を紹介します！

子どもが主体となる「読むこと」の授業づくり

筑波大学附属小学校教諭　白坂 洋一 先生

「子どもが主体となる授業をどのように行えばよいのか」という疑問をお持ちの先生もおられるのではないでしょうか。研修講座では、子どもの「問い」に着目することで、子どもが主体となる授業展開を教えていただきました。研修講座での学びの一部を紹介します。

子どもの「問い」に着目した授業展開

子どもが　①問いをつくる ➡ ②問いで読み合う ➡ ③問いを評価する
（このサイクルをくり返し行っていく）

【①問いをつくる】
◆みんなで読み合いたい問いをつくる
・個人→ 3･4人の小グループ→全体の順番で問いを吟味していく

【②問いで読み合う】
◆みんなで決めた問いで読み合う

・多様性のある学び
〈学習形態と学習デザインの工夫〉
・表現的板書法
〈自由な発言を引き出す〉

教師は伴走者として、読み合いの中で問い返しをするなどして、子どもの読みを深めていく。

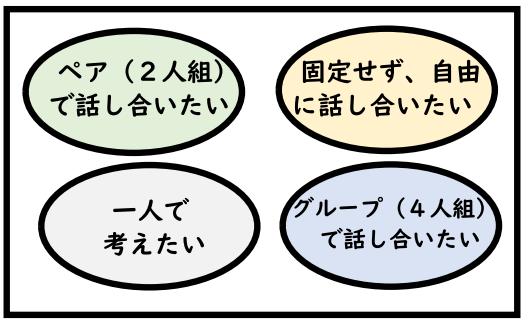
【③問いを評価する】
◆問い日記を書く:リフレクション

〇問いはよかったか、その理由
≪問いの評価≫
〇問いで新しい発見はどんなことだったか、学べたこと　≪読みの方略の価値づけ≫
〇次の問いへの思い、自分の考え
≪自己の思いの表現≫

〈問い作りの条件〉

・本文からはずれない
・「 ～ は ～ か。」という質問の形で

〈学習形態と学習環境のデザイン〉
・教室を4つに分けて、学習者が誰とどのように読み合うかを選択・決定できるようにする。



・ホワイトボードや画用紙を準備して、考えるときに活用できるようにする。

白坂先生のご著書は事務所にて貸し出しおります。ぜひお読みください。

受講者の声

講義では実際に教材を読みながら問いを考えていったので、このように授業をつくっていけばよいのだと非常に参考になりました。2学期の授業こくごの「手紙」などは問いから考えていきたいと思います。

挑戦してみたいと思いました。動画を見て、子どもたちの話をしている様子が素晴らしく、あの様な姿を目指したいと感じました。

今回は教材研究の仕方や発問、問いのつくり方について教えていただき、さっそく自分の担当学年の教材研究をしたくなりました。

生徒の主体的な読みを引き出す具体的な手立てとして、問い作りを中心に、その前提となる教材研究から実践上の留意点まで体系的でわかりやすいご講演でした。

《問い合わせ》
研修課 0770-56-1302